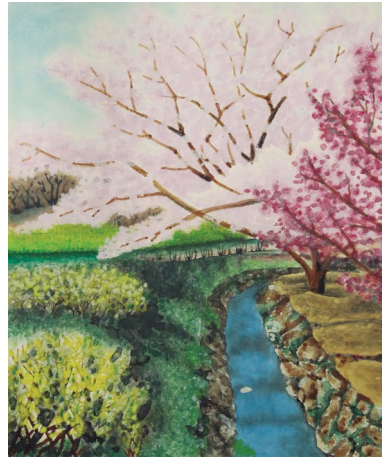


表紙のことは

山田 進「百花繚乱」

近所の公民館へ日本画教室に行っていました。5年前、脳梗塞になり、右半身麻痺になり、絵はもうやめようと思っていました。作業療法の先生に「リハビリだと思って左手で描いてみよう」と勧められ、描いてみたところ「これはすごい」とほめてくれたので、やる気になりました。日本画では岩絵の具を使っていましたが、絵の先生に水彩絵の具やクレヨンを使うことを教わり、道具も工夫しながら描くうちに、うまく描けるようになりました。速くは描き進められないので、自宅で自分のペースで描き進め、タブレットで写真を撮って送って絵の先生に指導してもらっています。2023年3月には公民館で展示をしました。自分が描いた絵を欲しいと言って持って帰ってくれる人が多くいて、嬉しかったです。リハビリの先生と絵の先生に感謝しています。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



藤原 薫「桜」

介入開始時は作業活動に消極的でしたが、他患者が行っている塗り絵に興味をもたれてから本人も塗り絵を行うようになられました。塗り絵を行う中で他患者やスタッフと交流する機会も多くなり、本人の中で大事な作業になられました。塗り絵以外の作業にも興味をもたれはじめたときに、OTジャーナルの表紙作品の話を聞き、本人と話した結果、「やってみたい」と意欲的な発言が聞かれました。桜の咲く姿を思い浮かべながら、配色や色の濃淡等を一緒に考えながら作成しました。完成後は病棟のスタッフ等からの「すごい！」の言葉に笑顔が多くみられました。

(担当作業療法士：志方)